東日本大震災・原子力災害伝承館
第５回資料選定検討委員会議事録

１　実施日：令和２年３月２５日（水）　１３：００～１５：００
２　会　場：中町ビル大会議室
３　出席者
　委　員：青木淑子（富岡町３・１１を語る会代表）
　　小野広司（福島民友新聞社編集局長）
　　菊地芳朗（福島大学教授）
　　○欠席　鞍田　炎（福島民報社編集局長）
　　中井俊郎（ＪＡＥＡ福島研究開発拠点副所長）
　　藤澤　敦（東北大学教授）
　事務局：小林　真（文化スポーツ局次長）
　　宍戸哲也（生涯学習課長）
　　本多智洋（生涯学習課主幹兼副課長）
　　太田栄一（生涯学習課主任主査）
　　遊佐昌志（生涯学習課主任主査）
　　武藤隆浩（生涯学習課主任社会教育主事）
　　舘山遥奈（生涯学習課主事）
　受託者：（株）トータルメディア開発研究所
　　国立大学法人　福島大学
　　（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構
オブザーバー：復興庁
　　経済産業省

４　議事
（１）伝承館開館までの全体スケジュールについて【追加資料】
　○　事務局より全体スケジュール（想定）について説明。
　○　福島イノベーション・コースト構想推進機構が指定管理者として施設運営をしていくことが決まった。（事務局）

（２）伝承館資料選定検討委員会の開催について【資料１】
　○　事務局より伝承館資料選定検討委員会の開催について説明。
　○　第５回委員会は実物に関する最後の意見聴取となる。プロローグ映像については、他の展示と合わせて５月に予定される第６回委員会でご確認いただく予定。（事務局）

（３）実物資料（候補案）について
　○　事務局より展示・プレゼンテーションエリア内展示資料について説明。【資料２】

委員からの御意見

①　災害の始まり
＜1-1　事故前の暮らし＞

○　意見なし

＜1-2　東日本大震災～地震と津波の記録～＞
○　意見なし

＜1-3　原子力発電所事故の発生＞
○　意見なし

＜1-4　災害対策本部の記録＞
○　意見なし

②　原子力発電所事故直後の対応
＜2-1　避難の開始＞
○　意見なし

＜2-2　県内に広がる不安＞
○　意見なし

＜2-3　国内外の反応と支援＞
○　意見なし

③　県民の想い
○　意見なし

④　長期化する原子力災害の影響
○　研究者インタビューについて、人選などはどうなっているか。（小野委員）
（Ａ：まだ検討中である。）

＜4-1　除染＞
○　「タイベックスーツ」について、高線量ではない地域での除染では使われていない可能性が高い。場所としては、「避難の開始」の方が合うように感じる。（中井委員）
（Ａ：「除染」のコーナーにタイベックスーツを展示している主旨としては、事故後の線量が高い時の作業時に使用されていたためである。福島市などの除染についてはどのように説明すればよいか検討する。当時の避難所で線量を計測する人がタイベックスーツを着て、避難者が通常の私服となっていることは「避難の開始」に写真を出す予定である。）
○　町民にとってタイベックスーツは一時帰宅の時に着た非常に印象的なものである。（青木委員）
（Ａ：写真、実物について誤解のないように展示できるよう検討する。）

＜4-2　風評の払拭＞
○　意見なし

＜4-3　長期避難への対応＞

○　意見なし

＜4-4　健康に関する取り組み＞

○　「県民健康調査」が紹介されるようだが甲状腺検査の結果は出す予定か。甲状腺検査について、データを出すかどうかは別として、何らかの形で経過を紹介した方が良い。（小野委員）

（A：基本的には事実を伝える施設となるため、検査項目は示す予定だが、検討が継続されている内容であるため今後検討する。）

＜4-5　研修・ワークショップ＞

○　意見なし

⑤　復興への挑戦

＜5-1　行政による復興への取り組み＞

○　意見なし

＜5-2　廃炉の今＞

○　意見なし

＜5-3　福島イノベーション・コースト構想の取り組み＞

○　意見なし

＜5-4　みらいの街＞

○　意見なし

＜5-5　チャレンジ！ふくしま＞

○　意見なし

⑥　全体共通・その他

○　実物資料に関するキャプション説明はこれから作成するという認識でよいか。文章は展示業者が作成するのか。（菊地委員）

（A：これまでのデータベースをもとに4月中には作成する予定である。キャプションはあくまで県の方で原稿を作成し、イノベ機構に引き継ぐ予定である。内容については次回の委員会までに情報共有をさせていただく。）

○　キャプションの文章は、実物が何かをしっかりと伝えるように推敲が必要になる。（菊地委員）

○　キャプションプレートは難しい内容であったり、小さい文字になってしまっていることが多いため、分かりやすく読みやすいように配慮が必要である。（小野委員）

（A：実際の製作を行う展示業者、資料収集をした福島大学、運営するイノベ機構と連携して検討する。）

○ キャプションだけではなく、音声ガイダンスも将来的に検討するとよい。（小野委員）

（A：現状、開館当初は音声ガイダンスがない。外国語対応としてタブレットを 50 台入れる予定なので、将来的にその設備を活かした対応も検討できる。「県民の想い」では全体演出として映像を見せる展示がある。）

○ 証言映像の進捗はどうなっているか。すでにインタビューは終わったのか。9年経ってようやく当時の話をしてくれるようになった方もいるため、この収集は継続していただきたい。（小野委員）

（A：撮影は終了し、映像編集を進めている。その内容を各証言者に確認をしてもらう準備をしている。開館後も証言映像の入れ替えなども検討し、引き続き収集を継続したい。）

○ これまでの委員会での意見はあるが、最終的に展示にどう活かされているかのチェックがいつ頃できるようになるか。（青木委員）

（A：実物は本日の委員会で決まるが、キャプションは４月中にまとめて次回委員会までに共有させていただく予定。）

○ 施設がオープンしたら資料収集が終わりということはなく、開館後にも集まる資料があるはずであるため、絶えず展示替え、企画展などで対応していく必要があると考える。収集された場所については、福島県民は各自治体の位置がわかるが、県外・外国の方には伝わりにくい。収集場所がわかる工夫も必要になると考える。（菊地委員）

（A：検討する。）

○ かつての故郷を記録に残そうとする個人、研究者、団体がかなりいる。これらの記録も展示（県民の想い、長期避難への対応）や図書コーナーで紹介してほしい。（菊地委員）

（A：基本的には資料収集ガイドラインに基づいて収集する。また、具体的な内容を確認して対応を検討する。）

（４）資料収集・保存について

○ 事務局より震災関連資料の収集結果等について説明。【参考３】

○ 事務局より収集資料について説明。【参考４】

○ 資料収集は４月以降も継続されるという認識で問題ないか。（藤澤委員）

（A：指定管理と連携して実施していく。）

○ 発災～1ヵ月の間の資料について、どのようなものが資料となるのか気付きを住民等に与えられるとよい。（小野委員）

（A：原発事故直後という位置づけの資料は各家庭にはあまり無い。個人からの収集は避難地域にチラシを配ってその情報をもとに行った。また、原発事故直後の資料について、線量が高くて収集できないものもかなりあった。）

○ 資料そのものの背景、意味をしっかり伝えられないと来館者にとっても、資料提供者にとってもわかりにくい。資料収集の際も配慮が必要である。（小野委員）

4　その他

○　新型コロナの影響でオリンピックが延期になったが、伝承館のオープンは変わらないか。（小野委員）

（A：基本的には2020年夏頃を目指して進めている。正式なオープン日はまだ決まっていない。）